

して平滑なる小鱗に圓大にして尖りたる鱗を混生す。其排列方正にして尾の周圍に輪列状を呈す。

酒精漬標本にて生時の色澤を知るに由なきも、背部は黒褐色にして、腹面は暗褐色を呈す、頸部より背部の中央に細き白色の線あり。左右の脇腹に白色の斑點あり。尾の基部より末端までに五個の白き輪斑あり。其第參より第四・第五は背面より腹面に達し幾んど完全に輪斑をなす。

全長 頭長 頭幅 體長 前肢 後肢 尾長  
一〇五粒 一六粒 一二粒 三九粒 一九粒 二五粒 五〇粒

英國博物館蜥蜴類目錄第一卷第三十七頁 south (Canara)

第二十四卷第六版説明

- (一) ヤモリ。
- (二) リウキウヤモリ。
- (三) タシロヤモリ。

- (四) クロイワヤモリ背面。
- (五) 同上複面。

産にて *Gymnotichthys aliofasciatus* Bourlenger. と有る種に近似す。併し大さは全體に小さく、該種は後頭部に白色の新月状の横斑あれども本標本にはなし。本標本に於ては圖版第四圖に視る如く頸部より背に白色の縦線あり。尤も斑紋は同種にても色々變化あるものなれば、只此點を以て猥りに新亞種であることは斷定すること能わず。喙鱗と指趾の鈎爪の基にある鱗片にも多少符合せざる所あれば、他日第二の標本を得て充分に比較する事を得るの時期を俟て再び詳説する所あるべし。本標本に黒岩校長の芳名を記して永く記念とする事を得ば幸甚なり。

四 オンナダケヤモリ——*Peropus mutilatus* (VIE-

(GALANN)

本種は麻仁拉臺灣・琉球に於て採集せられ、合衆國・ベルゲン及ハムブルク博物館等に保存せらるる由。余等先年恩納岳に登りし際安田眞之助の捕獲せる標本中の一頭を發見せり。不幸にも保存液の爲歟、背の一部分皮膚剝離して撮影する能はざるも、頭部の完全なりし爲識別することを得たるは幸ひなりき。

此種の頤鱗は三角形にて、頤下鱗は縦列をなして排列す。スタインゲル氏の圖說せらるる所に因ると、頤下鱗は三對相列すれ共、此標本に於ては第三のもの二—三個の小片となり居る點少しく符合せざれども、かゝる例は往々ある事なれば同種として差支へなかる可し、猶本種の指趾に具ふる褶襞は二列なれども、瓣狀部前種より其形狀異なれり。第一趾に爪を缺く。尾は扁平にして所謂蒲鋒形をなす。併し基部は太く、末端は細し。背面は顆粒狀の鱗に被包せられ、下面の中央は幅廣き鱗正列し、兩邊緣にある鱗片は屋瓦狀に排列し尖銳なり。

雄には内股腺發達せる様スタインゲル氏も記され居るが幸にも本標本は雄にして内股に腺孔を認め得らる。左右に各十六個を算し、下腹の中央に於て相接続す。

五 クロイワヤモリ——*Cymnodactylus albo-**fasciatus* *kuvoirae*, n. subsp. (第四・第五圖)

本種は明治四十三年夏沖繩縣立農學校長黒岩恒氏上京の際持參せられし珍奇なる標本にして、氏は四十二年九月國頭郡羽根地タニヨ岳に於て偶然溪流に添へる石の下より發見捕獲せられしと云ふ。其形狀と云ひ、其色彩と云ひ、普通の守宮とは一見して其異なるを視る。四肢の割合に長き、指趾の裡面に普通種の如き褶襞の發達せざる等より察すること、樹上に栖息するものならむ歟。

頭は扁平にて、喙は稍尖り、眼と耳孔との距離に相均しく、耳孔は略眼瞼の二分一の大さにて斜に半卵圓形をなす。喙鱗は其幅高さの一倍にして上部に二個の大なる鼻間鱗隆起し、中央に窪みあり。鼻孔は外方の鼻鱗とじて上部は顆粒狀の細鱗に接す。頤鱗は大なる三角形にして普通種に於ける如き頤下鱗の大なるもの無し。故に十個の大なる下唇に次で稍々大粒の顆粘鱗を視る。

四肢は比較的長く、指趾も長くして圓く扁平ならず其裡面にある褶も其周圍にある鱗より稍々大なるに過ぎず。每指趾には皆鈎爪を具ふ。指趾の間に連接膜を有せず。

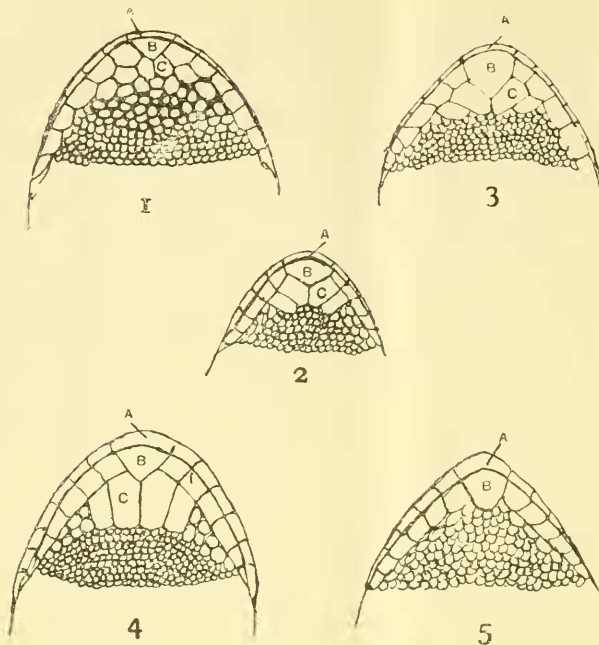
頭及胴部の皮膚は一樣に凸狀の顆粒に富み、背面には稍々大なる圓き顆粒を混す。多少順序立ちて排列す。腹面は小なる平たき鱗を以て被包せらる。尾部は圓柱狀に

二 リウキウヤモリ — *Hemidactylus frontus*

DUM. & BIR.

(第六版)  
第二圖

本種は前種に次で沖繩群島に廣く分布せる種なり。前種に比するに、頭部少々細長く、喙鱗は方形にして幅廣し、上唇及下唇の數は前種と同じく、頤鱗は大にして三



(1) ヤモリ。(2) リウキウヤモリ。(3) タシロヤモリ。

(4) オンナダケヤモリ。(5) クロイワヤモリ。

略語解 — A 喙鱗。B 頤鱗。C 頤下鱗。

(論 說) ○沖繩産守宮類に就て (波江)

角形をなし、頤下鱗の中央の一對は斜めに相接觸し、其左右のものは其大さ同じけれども互ひに相隔離して接着せず。指趾の褶襞は二列をなし、本種の第一趾には小さな鈎爪を具ふ。内股腺は膝部近くより下腹の中央を通じて參拾個の腺孔を有す。尾の背面に大なる鱗片六個宛列を正して混生するを以て輪狀を呈す。尤も中央より兩側に偏して三個宛臚列する觀あり。腹面の中央には幅廣き鱗板排列す(第六版)

本種は沖繩島以南に分布せるものなる歟。余等大島に於て捕獲せず。

三 タシロヤモリ — *Hemidactylus boerlingii*

(Gray) (第六版)  
第三圖

本種は沖繩群島中八重山列島以南の種なる歟。圖版第三圖の標本は田代安定氏が嘗て宮古島に於て採集せられしものなり。沖繩本島に栖息するや否や。

前種と異なる點は頤鱗の大にして五角形をなし、頤下鱗の一對も大にして相接觸し、其左右に在る一對は稍小にして中央の一對より幅狭く、丈け少しく短し。第一趾の鈎爪充分に發達し、指趾の褶襞は前種の如く二列をなし各指趾の末端に於ける有爪部長し。内股腺は十三乃至十六個の腺孔を兩側に有す。膝部近くより下腹部の中央に至り間歇して前種の如く相接續せず。

## ●沖繩産守宮類に就て

(第廿四卷  
第六版附)

波江元吉

内地沖繩及臺灣等の守宮類に就てスタイチゲル氏の『ヘルペトロジー』並英國博物館目録に記載せらるゝもの五屬七種、其中最も各地を通じて廣く何地にも栖息する種は *Cekko japonicus* なり。次に沖繩列嶋に普通にして内地に見ゆるは *Hemidactylus frenatus* (Linnaeus), *H. boaveringii* は奇品ならむ歟。田代安定氏の宮古島の採集品中に本種に屬するもの二疋あり。明治四十二年の四月四日恩納岳に於て安田眞之助の採集に係る守宮は *Peropus multulus* (Wiegmann) に屬せるものと認めらる。但し一個にして且標本の背部剝脱して撮影すること能わざるは遺憾の至りなり。

今是等既知の種類に就て其識別すべき要點を略述せん。

守宮類は爬蟲類に屬すれども蛇類右龍子類の如く鱗片に被包せられず。皮膚は顆粒狀を呈し背部並に尾に往々鱗狀又は疣狀のものを混生す。

頭部には喙・上唇・下唇・頤・頤下鱗のみ板狀をなす。是等の板狀鱗の形狀大さ其數に差等ありて識別の特徴を有す。又守宮類の各肢の指趾に褶襞あることは申すまでもなく特異なれども、其褶襞の著しく發達せるものゝ然らざるものとあり。其發達せるものにては其形狀排列が

種類に因て一様ならず且此類には下腹部或は内股に腺孔を具ふるものあり。其數と排列に違ひあるを以て是亦鑑別の標徴となすに足る。

一 ヤモリ——*Cekko japonicus* (DUMERIL &PILBON) (第六版  
第一圖)

本種は獨り沖繩のみならず、内地にも朝鮮及支那等にも廣く栖息する種にて、背部には大小ある顆粒の鱗皮を被り、喙鱗は方形にて、上唇は拾壹個、下唇は九個を具ふ。頤鱗は稍々大にして五角形をなし、其次に一對の頤下鱗あり。其左右に同形若しくは稍々短きもの尙ほ一對ありて、是れに次で多角形の鱗數個排列す。趾の褶襞は幅廣く、五趾中第一は九個にして、最長の趾は十五—十六個を有す。各趾端に鈎爪を具ふれども此種は第一趾に爪を有せず。下腹部の中央に雄は前肛腺六個の腺孔を一列に有す。圖版第一圖の標本は沖繩本島産にして尾割合に短し。復生せるものゝ如し。雌雄共に尾の基部の兩側に腫狀の隆起あり、雄に於ては能く發達す。充分生長せるものゝ於ては、兩側に三個の腺孔を見る。此種の分布は隨分廣く、支那・朝鮮・本道・四國・九州・沖繩・臺灣等に至るまで栖息す。北海道には稀れる由。